巻頭言

# 別府の山並みを望んで思うこと

別府大学教職課程委員会
委員長 櫻田 裕美子
（文学部教職課程）

私の研究室は、34号館５階にある。エレベーターの行先階ボタンを押した後、横の窓からしばし外を眺める。昨春まで宮崎に暮らし、日々青い空を眺めて過ごしていた私には、目前に山が広がる風景が珍しく感じられる。

窓からは、別府らしい景色が見渡せる。鉄輪温泉の湯煙は風情がある。湯煙の勢いは空気中の水蒸気の量で変化すると教えてくれたのは、人間関係学科実習準備室の荒金さんだ。なるほど、晴天の日には蒸気は少なく、雨が降る時にはモクモクと立ちのぼる。最近では湯煙の量をみて天気の行方を感じ取ることができるようになった。一端の別府人の仲間入りをした気でいる。鉄輪温泉の湯煙の向こうには、扇山（大平山）が茶色い山肌を見せる。その左後方には、鶴見岳が望める。鶴見岳は実は活火山で、麓の小学校では火砕流に備えた避難訓練をしていると聞いた。扇山は標高815m、鶴見岳は1,375m。鶴見岳は、鹿児島の桜島（1,117m）よりも高いと知って驚く。

鉄輪の湯煙、扇山、鶴見岳を眺めて、別府の自然の雄大さを感じて心が満たされる。しかし、ふと思い至る。由布岳があるはずだ、と。別大道路（国道10号線）で大分市から別府市に向かう際、うみたまごを越えて緩い左カーブを抜けると鶴見岳の左奥に由布岳が見える。鶴見岳よりも標高の高い由布岳（1,583m）は、大寒の頃には雪をかぶり真っ白な頂上が美しい。しかしその姿は、鶴見岳の奥に控えて34号館５階の窓辺からは見えない。

扇山、鶴見岳、そして背後にある由布岳。この配置は、教職課程履修者の大学生活のイメージとリンクする。学生の皆さんは、扇山のような広々としたフィールドで教職に向かっての学びを進めていく。その先に見えているのは教育実習（鶴見岳）だ。学生の皆さんにとって教育実習は教職課程履修の集大成であり、大きく高い目標として目の前に現れている。しかしその先にある由布岳、すなわち教員として社会にはばたく手段（教員採用試験）は目に見えにくい。34号館５階から由布岳は見えないが、存在している。大学での教職課程履修と教育実習のその先に、教員採用試験があると意識することが重要なのだ。

本年度は、多くの４年生が教職課程における由布岳（教員採用試験）を心に定め、５名が現役合格をおさめた。何よりもご本人が着実に対策を進めてこられた努力の賜物である。加えて、各学部学科の教職課程科目の担当教員、昨年度まで指導にあたられた今井航先生、佐藤敬子先生を含めた教職課程教員の指導に支えられたものであることは言うまでもない。

教職課程を履修する学生の皆さんには、是非教職課程履修における由布岳である教員採用試験に向けた取り組みまでを心に描いて進んでいただきたい。

別府大学教職課程は、常に皆さんをサポートする。